

学校だよりNO22

令和3年9月17日

児童数 471人

薫っ子



文責 校長 古川 次男

互見授業開始

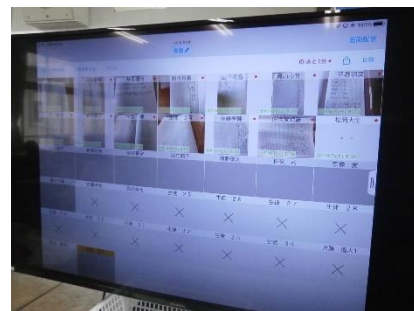
「互見授業」＝お互いに授業を見せ合うこと。本校の教職員による互見授業が、開始されました。日頃の指導を振り返り、お互いに授業力を高めるための取り組みです。今回は、朝の「かがやきタイム」を使つての実践のため、右の写真にあるようにたくさんの先生方に参観していただくことができました。



左の写真は、タブレットを通して教師が配信した漢字の問題をノートにやっている冒頭の場面です。全員、無駄話もせず、集中してやっているのが印象的でした。「タブレットを使うと、集中力が違います。」とは、同学年の先生の話です。実際、他の学年の授業でも、タブレットを使っている時の子どもたちの集中力がすごいと感じる場面が多くあります。

「配信された問題を、直接タブレットに解答してはだめですか？」と、学年の先生にお聞きしたところ、「タブレットに直接書き込むには、きれいな字を書きにくい。」というお話がありました。漢字の問題ということもあり、納得できました。また、ノート指導を大切にしたいという考え方もあるのかなとも思いました。

終わったら、自分のノートを写真にとって、提出します。ロイロノートというソフトを使って提出していました。このソフトを使うと写真にあるように誰が提出したかが一目で分かります。とても、便利なソフトです。



このソフトは、結構多くの学級で使用していて、子どもたちも自分の考えを書き込んで提出したり、自分の作品を写真に撮って提出したりして、その後、お互いに比べ合ったり見合ったりしています。考えや作品を共有することが、とても手軽にできる便利なソフトです。

その後、問題を配信したとき同様に模範解答を教師が配信します。それを見ながら子どもたちは、自己採点をしていきます。当たったら丸を付け、間違っていたら青鉛筆で正しい字を書きます。その後、自己採点したノートを写真に撮り、ロイロノートに提出します。

ICTを使用することにより、短時間でこれだけの内容を指導することができるわけです。教師は、その間、悩んでいる子どもの個別指導ができるので、より効率的に指導することができるわけです。

日頃の指導を交流しながら、薫っ子の学力向上につなげていきたいと思ひます。